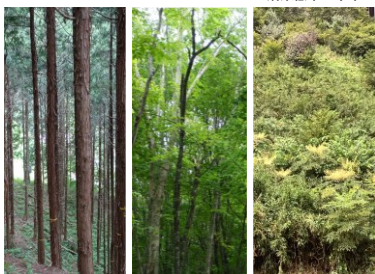
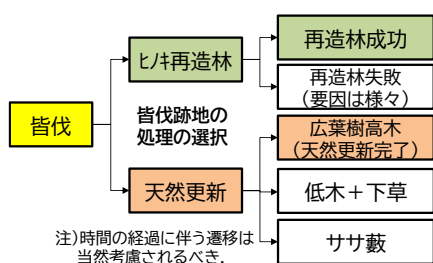


研究課題番号	【2MF-2301】
研究領域	気候変動領域
研究課題	「長良川流域における森・里・川の気候変動適応が 中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究」
研究代表者（所属）	原田守啓(東海国立大学機構 岐阜大学)
研究期間	2023年度～2025年度
研究キーワード	森林管理, 皆伐跡地, 河川生態系, 中山間地域, ウェルビーイング

研究概要と進捗状況(中間の2024年度時点)

サブテーマ1: 森・里班

○皆伐跡地モニタリングデータの分析により, 皆伐跡地が辿る経過は, 再生林又は天然更新だけでなく多様ではあるが, 典型的なパターンがある。
○炭素吸収能, 水循環(水資源涵養量, 水温)のモデル分析に着手. 森林機能の分析を進める。



サブテーマ3: なりわい・Well-being班

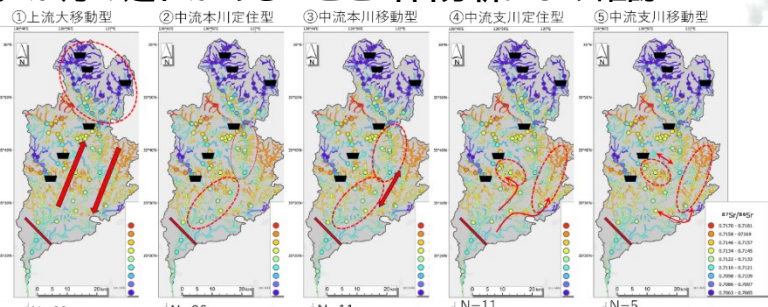
○長良川上流域(郡上市)における山の恵みと, 地域の多様なつながり方の全体像をバリューチェーンとして把握。
○山の生業と主観的幸福度についてのヒアリング調査を踏まえ, アンケートを設計・試行。
→アンケート本格実施へ

木材 山菜 登山道 林道
野生生物 溪流 雪 野生的環境
森林セラピー



サブテーマ2: 川・アユ班

○長良川流域で育つアユがいつどこで育ったのかをストロンチウム安定同位体分析により解明. 再生産(産卵)するアユの由来についても分析し, 天然遡上個体の寄与が大きいことを確認。
○長良川生まれのアユがいつ生まれか, 三十年前と現在を比較. 約1か月の遅れがあることを耳石分析により確認。



[主な対象地域:岐阜県, 長良川流域]

環境政策等への貢献

○県行政, 県・国の機関研究者, 大学研究者と地域のステークホルダーの協働を基調とし, 地域における気候変動適応の推進, 地域における脱炭素社会の実現に向けた具体的な適応策を共創。
○炭素吸収源としての森林機能だけでなく, 水源涵養機能, 地域資源として地域内循環の形成やウェルビーイングの向上につながる森林管理・山仕事のあり方を提案。
○河川生態系への温暖化影響・アユ生活史全般への影響を, 最新の分析手法, 過去データの分析より特定し, 持続的な資源利用に向けた方策を提案する。
○中山間地域の暮らしにおけるウェルビーイングを形成する因子のうち, 特に山林から得られる恵みとの関わりに着目した知見を提供し, 移住促進や林業従事者に関わる施策の意思決定材料を創出。